

平成 30 年度 鳥獣被害対策支援活動報告

1. かながわ鳥獣被害対策支援センターの取組概要

鳥獣被害対策は、集落環境整備、被害防護対策及び鳥獣の捕獲の 3 つの基本対策を、地域が一体となって取り組む「地域ぐるみの対策」が効果的である。

こうした取組を広げていくため、県は、地域県政総合センター単位で実施していた支援を集約して、高い専門性を持つ「かながわ鳥獣被害対策支援センター」（以下「支援 C」という。）を平成 29 年 4 月 1 日に設置し、市町村や関係機関と連携して効果的な対策の提案、技術支援、効果検証などの支援を行っている。

(1) 設置場所

平塚市西八幡 1 - 3 - 1 平塚合同庁舎別館

(2) 体制（平成 31 年 3 月 19 日現在）

10 名

リーダー（事務）1 名、農業職 2 名、林業職 1 名、事務職 1 名
鳥獣被害対策支援マネージャー 1 名、鳥獣被害対策専門員 4 名

(3) 業務内容

① 「地域ぐるみの対策」支援

- ・鳥獣の出没及び被害等の状況把握、対策への合意形成の支援
- ・重点取組計画策定支援、対策の実施、効果検証

② 個別対策の技術支援

- ・ニホンザルの管理に係る専門的な技術支援
- ・指定管理鳥獣（イノシシ）捕獲等事業の実施
- ・個別対策に係る相談への助言、わなのかけ方など技術的指導

③ 人材育成

- ・地域リーダー育成、市町村職員等への研修

(4) 「地域ぐるみの対策」の立ち上げ支援

市町村や地域住民等が一体となって取り組む「地域ぐるみの対策」を普及していくため、平成 29 年度に「重点取組地区」を 6 地区選定し、「地域ぐるみの対策」の立ち上げ支援を行ったところ、鳥獣対策の 3 つの基本対策である集落環境整備、防護対策及び捕獲に対する地域での共通理解が深まり、取組の体制が構築された。

平成 30 年度は、新たに 5 地区を追加選定し、平成 29 年度選定地区と合わせて 11 地区で取組を進めた。

① 重点取組地区の選定

<選定の視点>

現状と課題を踏まえて、次の視点で今年度の重点取組地区を選定した。

- a 鳥獣種及び地域的に地域ぐるみの対策の空白域となっている
- b 鳥獣による人身被害が懸念されるなど、緊急に解決すべき問題がある。
- c 侵略的な外来生物等の被害の初期段階にある。
- d 他施策との連携により対策の相乗効果が期待できる。

<選定地区>

◆平成 30 年度～【5 地区】

項番	地区名	主な対象鳥獣	選定の視点
1	横須賀市東浦賀町 2 丁目地区	サギ	a、b
2	愛川町田代（平山）地区	イノシシ	a、b
3	藤沢市葛原地区	ノウサギ等	a、b、d
4	大磯町生沢・寺坂地区	イノシシ	a、b、c、d
5	湯河原町鍛冶屋・城堀・宮下地区	イノシシ、サル	a、b

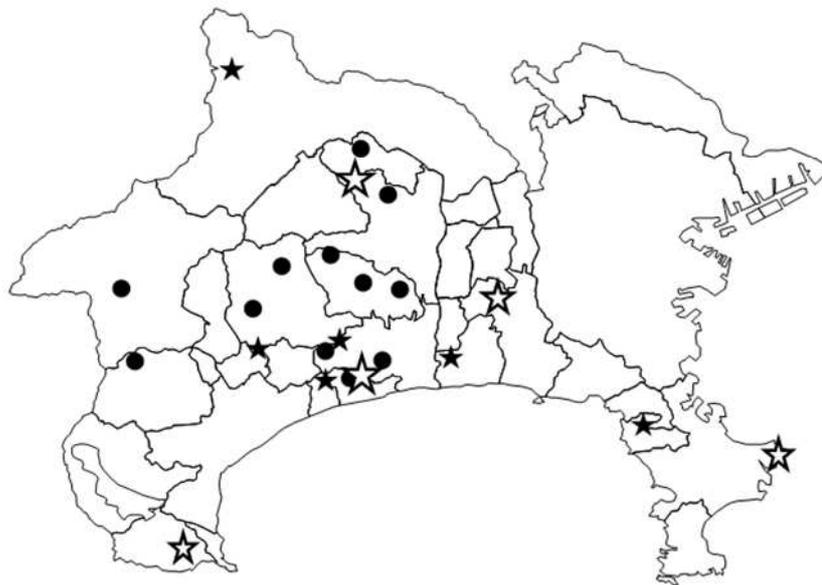
◆平成 29 年度～【6 地区】

各地区とも取組の体制が構築され、次のような取組が行われている。平成 30 年度は、集落環境整備、防護対策、捕獲など地域の自主的な取組状況を把握して、ヤブ刈りの手法や防護柵の設置計画、捕獲わなの運用といった、技術面でのフォローアップを行っている。

項番	地区名	主な対象鳥獣	選定の視点
1	葉山町二子山地区	イノシシ	a、b
2	茅ヶ崎市萩園地区	アライグマ	a、c
3	相模原市緑区名倉地区	イノシシ、シカ	a、d
4	平塚市土沢地区	イノシシ、シカ	a、d
5	二宮町一色地区	イノシシ	a、d
6	大井町高尾地区	イノシシ、シカ、ハクビシン	a、d



【参考】地域ぐるみの鳥獣被害対策の支援状況



凡例

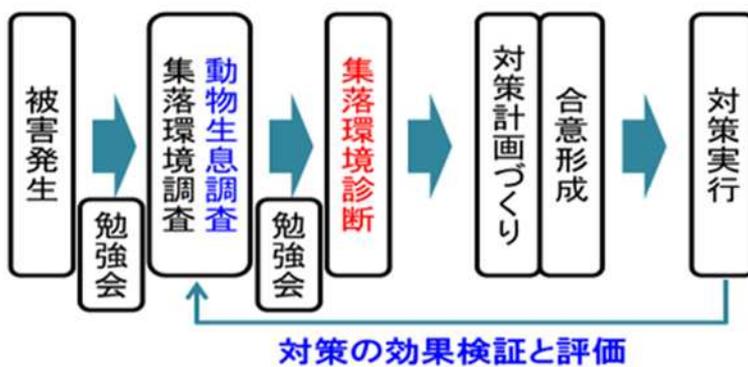
- : 平成 24～28 年度に取組支援を行った地域
- ★ : 平成 29 年度～ 重点取組地区
- ☆ : 平成 30 年度～ 重点取組地区

② 重点取組地区の対策の進め方

被害が発生している地域の現状を把握し、必要な対策について合意形成を図りながら計画を作成し、実行する。そして、対策の効果検証と評価を行いながら、地域の自立を促す。

また、「地域ぐるみの対策」の普及を図るため、重点取組地区の対策の効果を広く周知するとともに、他の地域の住民が参加できる現場での被害対策技術講習会を開催する。

対策実行の手順



※耕作地単位の被害箇所数の変化等により具体的な効果を把握



集落環境診断
(平成 30 年 6 月 3 日 大磯町生沢地区)

2. 地域ぐるみの鳥獣被害対策の重点取組地区

(1) 横須賀市東浦賀2丁目地区（サギ）

① 地域の概要

横須賀市のほぼ東端に位置する港のある小高い山を複数含んだ横須賀市特有の地形。当該アオサギのコロニーは海に面した小高い山にある神社の社叢林に作られている。被害は3自治会（新井町内会、オーシャンパーク浦賀・東浦賀和光台各自治会）にまたがっている。平成15年ころから、コロニー付近では鳴き声・フン害、飛行経路の周辺ではフン害・食べかけのエサ（魚）が落ちてくる被害がある。

② 平成30年度の取組内容

ア 現地調査

[地域の課題]

- ・被害は3つの自治会にまたがっているが、コロニー近くと飛行経路の周辺に集中しているため自治会内の足並みがそろわない。
- ・社叢林は県指定天然記念物であり、伐採は困難である。
- ・東浦賀～長井まで調査をしたが、コロニーの移動先は見つからなかった。

イ 有識者・市と現地調査および住民から聞き取り調査

有識者：高木氏（NPO バードリサーチ・鳥類）

有識者：勝山氏（地球博・樹木）

[今後の対策方針]

- ・ライト照射・音などを使ってコロニーを利用させないようにする。
- ・社叢林の間伐など森林管理によりコロニーを解消させる。
- ・コロニーの代替地を設定して、誘導を試みる。

ウ 対策実行および取り組み

- ・今年度はアオサギが当該コロニーを利用しなかったため対策未実施。
- ・オーシャンパーク浦賀自治会の役員会において住民と勉強会を実施。

③ 成果

- ・鳥類の生活被害の対策が未確立な中で鳥類と樹木の有識者と対策案を作ることができた。
- ・1自治会ではあるが、動物にも配慮した対策への意欲が出てきた。

④ 今後の課題

・平成30年度は県内他地域でもアオサギコロニーの飛来数が少なかった。アオサギはコロニーを数年に一度変更するが、基本的には既存のコロニーを再利用する。そのため、他のコロニーを移動していたとしても何年後かには再利用すること、偶々飛来しなかった可能性を考慮し、自治会の対策意欲を維持する必要がある。また、原則コロニーは単純解消ではなく代替地を設定して誘導を試みる必要がある。そのため、他地域でのアオサギコロニー対策を体験してもらう必要が住民・市職員ともにあると考える。



(2) 愛川町田代・平山地区（イノシシ）

① 地域の概要

愛川町は神奈川県のおぼ中央に位置し、その南西部にある田代・平山地区は中津川沿いの山に囲まれた地域である。国道 412 号を挟んで西側と東側に集落が分かれており、西側には町により、広域防護柵が設置されている。近年、イノシシによる住宅周辺の掘り起こしや人前への出没による脅威などの生活被害が問題化しているが、住民の関心が低いことから、対策の必要性を意識づけ、地域ぐるみの対策への参加を促すことが必要である。

② 平成 30 年度 of 取組内容

ア 集落環境調査、聞き取り

[地域の課題]

- ・広域防護柵の内側（集落側）にイノシシの痕跡が多い
- ・広域防護柵に破損等で穴が開いている場所がある（イノシシ通行の疑い）
- ・イノシシの人馴れ傾向が強く、人身被害の恐れがある（目撃情報等から）
- ・イノシシや広域防護柵について知らない人が多く、対策についての意識が低い

イ 集落環境診断会及びイノシシの生態と対策の勉強会

[今後の対策方針]

- ・広域防護柵破損場所のイノシシの行動の把握
- ・広域防護柵の修理

ウ 対策実行

- ・センサーカメラによるイノシシの行動の把握（愛川町に情報提供）
- ・広域防護柵の破損地点の修理実施及び箱わな（1 台）の設置。
- ・集落環境調査（2 回目）

エ 年間まとめ研修会

- ・集落環境調査及びイノシシの行動の説明
- ・現状の課題と今後の対策の話し合い

③ 成果

- ・集落環境診断会后、住民の中で電気柵の設置を検討したり、農地周りの伐採をするなどの対策をする住民が出てきた。
- ・センサーカメラにより、イノシシの出没状況を細かく把握することができた。
- ・広域防護柵で修理した場所においては、その後のイノシシによる通り抜けはなくなり、今後も地域住民による広域防護柵修理の動きが出てきた。
- ・対策の必要性を認識した住民が増えた。

④ 今後の課題

- ・2 回目の集落環境調査で見つかった新たな広域防護柵の破損部分の修理が必要。
- ・広域防護柵の内側（集落側）にイノシシが潜める場所が多いので、藪刈り等環境整備が必要。
- ・今年度は地域の参加者が、対策に意欲ある一部の住民に限られていたので、地区全体（特に西側）に向けた普及啓発が必要。
- ・県道から東側では、個人農地や住宅地付近の藪にシカの出没も確認されており、対策の必要性が高い。



(3) 藤沢市葛原地区（ノウサギ等）

① 地域の概要

藤沢市北部、綾瀬市との境に位置し、平坦な地形に農地と雑木林が広がっている。耕作は、地域の農業者からなる生産班が中心に行っているが、地域外の住民による小規模な家庭菜園も混在している。平成 28 年頃からウサギの被害が出はじめ、平成 29 年度に農業技術センターが展示ほとして防護柵の設置を行った。

② 平成 30 年度の取組内容

ア 葛原地区の現状調査

[地域の課題]

- ・加害動物は様々な中小型動物、鳥類。
- ・被害の発生範囲が限られており、被害意識に大きな差がある。
- ・対策手法を間違っている、対策をしていない農地が多くある。

イ 集落環境調査の結果報告と勉強会を実施

[話し合いで決まった対策方針]

- ・農業技術センターが展示ほとして電気柵（楽落くん）を設置する。
- ・電気柵設置の現地講習を行う。
- ・センサーカメラを設置し、出没する動物種の情報提供を行う。

ウ 対策実行

- ・展示ほに電気柵を設置した。
- ・現地講習
地域から参加者無し。市の職員に「楽落くん」の設置方法を説明した。
- ・センサーカメラの設置
6月～12月に農地に出没する動物の動きを把握した。

エ 今年度の活動報告を普及啓発も兼ねてチラシにして配布した。

③ 成果

- ・展示ほ内の作物は無事すべて収穫することができた。
- ・被害の発生時期と主な加害動物の特定ができた。

④ 今後の課題

- ・未だ対策手法を間違っている農地がいくつかある。今後被害範囲が拡大する可能性があるため、地域全体に対策等の普及啓発が必要である。
- ・地域ぐるみの対策を進めるうえで、地域内外の農業者が集まり話し合う場を作ることが必要である。



(4) 大磯町生沢・寺坂地区（イノシシ）

① 地域の概要

鷹取山と高麗山から連なる丘陵の山間部に位置する。幹線道路を中心に田畑が広がり、生沢地区は宅地が多く、寺坂地区はカキをはじめとした果樹栽培が盛んである。それぞれの山際でのイノシシの被害が顕著である。また、ニホンジカの生息が確認され、被害及び生息域の拡大が懸念される。

② 平成30年度の実施内容

ア 外部講師による鳥獣害対策連続講習会(全6回)

○座学

- ・ 対策の基本の講習。地域の被害状況の説明をした。

○環境点検

[地域の課題]

- ・ 電気柵から農作物がはみ出ている。
- ・ ひそみ場になるヤブがある。
- ・ 収穫していない果樹がある。

○対策実行

- ・ 電気柵の外に果実が落ちないように、樹を剪定・除伐して電気柵を設置した。
- ・ 竹林を間伐し見通しを良くした。

○今後に向けた話し合い

- ・ 地域で調査した具体的内容を元に助言をおこなった。

イ 集落環境調査

- ・ 目視及びドローンによる調査により地図を作成した。
- ・ センサーカメラによる調査で動物の行動を確認し、情報提供した。

ウ 普及啓発

- ・ 地区の文化祭に対策の取り組みや調査地図のポスター展示をした。
- ・ 「一目でわかる資料(A4判1枚)」を作成、配布した。(電気柵、果樹栽培)

③ 成果

- ・ 電気柵を設置したほ場では被害がなかった。
- ・ 講習会后、電気柵を設置したり、管理状況を改善したとの声が挙げられた。

④ 今後の課題

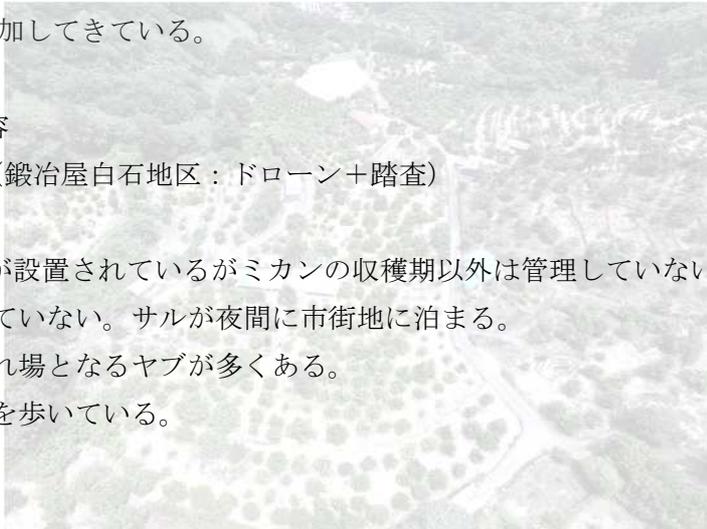
- ・ 対策について知らない人がまだ多い。普及啓発が必要である。
- ・ 高齢で対策をするのが難しい人もいる。個人の取り組みだけでなく地域ぐるみで取り組む必要がある。
- ・ 大型動物だけでなく、中型動物の被害を防げるような対策が必要である。



(5) 湯河原町鍛冶屋・城堀・宮下地区（イノシシ、サル）

① 地域の概要

東海道線湯河原駅の北側から城山（土肥城址）の山麓に位置しており、主にミカンが栽培されている。農作物被害だけでなく、イノシシが日中に人里に出没、サルが人家に侵入して食べ物を奪う等の深刻な生活被害も発生している。ここ数年で、シカの目撃や捕獲件数が徐々に増加してきている。



② 平成 30 年度の取り組み内容

ア 集落環境調査を実施（鍛冶屋白石地区：ドローン+踏査）

[地域の課題]

- ・イノシシ用の電気柵が設置されているがミカンの収穫期以外は管理していない。
- ・サル対策が実施されていない。サルが夜間に市街地に泊まる。
- ・放棄果樹、動物の隠れ場となるヤブが多くある。
- ・イノシシが日中道路を歩いている。

イ 集落環境診断会

[今後の対策方針]

- ・電気柵の正しい施工、管理方法、サルの追い払い方法を勉強する。
- ・農技 C：ハウスミカンで展示ほを検討する。自動撮影カメラ調査を実施する。

ウ 対策実行

- ・支援 C：T1 群に GPS 首輪を装着し、詳細な群れの動きを把握し、追い上げ試験を実施した。
- ・地域住民を対象に電気柵設置方法とサル追い払い方法の勉強会を開催した。実際に T1 群の移動経路を歩き、サルが利用する要因を現地確認した。

③ 成果

- ・ T1 群に装着した GPS を活用した行動調査結果や追い上げ試験で得られた問題点を該当地域に周知することができ、個々の追い払い活動や藪刈の意識付け等ができた。
- ・ イノシシ対策の間違いを認識させることができ、地域内外の研修会につながった。

④ 今後の課題

- ・ 各勉強会への出席が悪く、実施方法を検討する必要があるが、主要箇所の地権者等の理解が得られたので、個別対策として次年度以降対策が進む可能性がある。
- ・ 市の担当者はノウハウを理解したので、フォローアップ対象として支援を行っていく。

3. 新技術及び実証実験結果等対策技術に係る事例

(1) ドローンを活用した鳥獣出没調査

① 目的

ドローンによる空撮を行い、既存のセンサーカメラによる定点調査とともに、被害時期における面的な出没状況を把握し、鳥獣被害の発生防止に向けた取り組み支援を強化する。

② 調査地（実施規模） 調査期日

伊勢原市子易（約 20ha） 11 月 13、14、19、22、26、27、30 日（計 7 日）

③ 実施内容

ア 使用したドローン Inspire 1、MAVIC、赤外線カメラ TX

イ 手順 17 時～19 時、2 カ所の撮影ポイントで、各 3 回赤外線カメラで撮影
1 フライト 10～13 分

撮影方法は手動（補助者による目視確認）

ウ 調査内容 撮影動物を随時確認しながら時間、場所、動物種、行動等を調査票（集計表と地図）に記録

記録用紙を当日中に伊勢原市に送付し伊勢原市経由で地区農協及び地域に速報値として周知

内 5 動画について、シカ及びイノシシの AI 画像認証を使い検出精度を検討

④ 結果

ア 撮影された鳥獣種と撮影場所

- ・ 中型動物、行動からウサギ、ムササビについてのみ明確に判断。大型動物としてはイノシシ、シカ、クマがあった。
- ・ 広域柵内での出没するイノシシが数日にわたって確認されたが、26 日以降確認されなかった。
- ・ 思親会裏に出没するクマが 22 日に確認された。
- ・ 狩猟解禁日（15 日）前後での出没状況の変動は確認できなかった。

イ 調査結果の検討

- ・ ドローンを使った夜間撮影調査をもとに当日の速報値を発報することが可能
- ・ AI 画像認証結果は正解率 5.1%。獣種違い 25.4%、非生物との誤認 61.5%、非検知 8%

⑤ 考察（成果及び今後の予定）

ドローンを使った夜間撮影調査は、人が立ち入り難い場所や時間での出没把握に活用でき、その速報化も可能である。

さらに負担なく実施するため目視でなく AI 画像認証を取り入れる場合は、撮影方法のマニュアル化と検出精度を高める必要がある

試行的に、センサーカメラ画像についても AI 画像認証を取り入れる可能性について検討したところ 83%の確率で動物の撮影の有無は検知したので、学習条件を増やすことで活用の可能性がある。

(2) ICT 技術を活用したイノシシ捕獲

① 目的

多数のわなを一括で遠隔監視する機器、「オリワナシステム」を試行運用し、わなの見回りの負担軽減の効果や情報の信頼性、機器の利便性を検証する。

② 実施場所

神奈川県横須賀市内、逗子市内及び葉山町内

③ オリワナシステムとは

子機から送られるわなの作動状況を中継器を介して親機に送信。親機から携帯電話回線を使いクラウド上に情報を上げることで、わなの稼働状況を遠隔監視できる。

特徴は、

- ・ わなの情報をクラウド上で一元管理でき、不特定多数で共有可能
- ・ LPWA 技術を使い、携帯圏外に設置したわなでも使用可能。
- ・ 高い電波出力と中継機能で、従来製品より広範囲をカバーできる。
- ・ 通信料がかかるのは親機のみのため、低コストで運用可能。

④ 実施内容

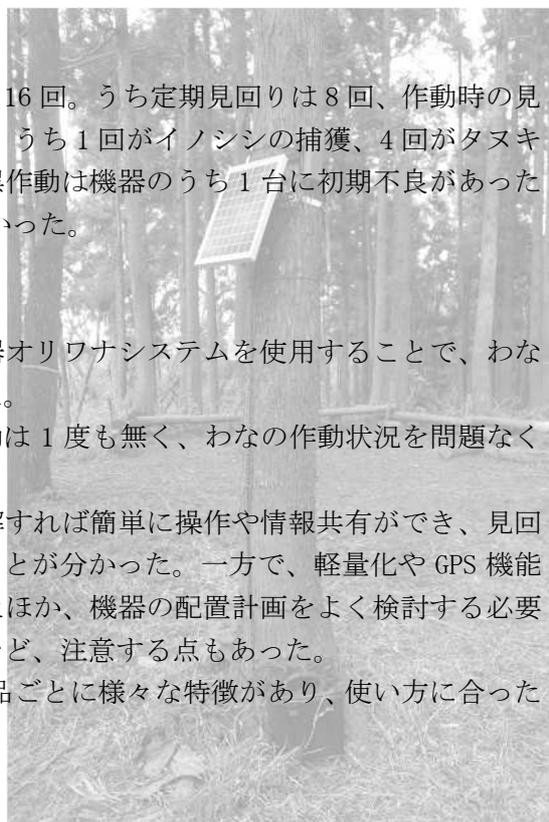
10 か所に設置したくくりわなにオリワナシステムの子機を設置し、クラウド上で作動状況を毎日確認。作動があった場合は現地確認。作動がない場合も1週間に1回定期見回りを行い、わなの状況をチェック。50日間運用し、負担軽減の効果、情報の信頼性、機器の利便性を考察する。

⑤ 結果

運用期間50日間で行った見回り回数は16回。うち定期見回りは8回、作動時の見回りは8回だった。作動時の見回りでは、うち1回がイノシシの捕獲、4回がタヌキなどの錯誤捕獲、3回が誤作動だった。誤作動は機器のうち1台に初期不良があったため、機器交換後には誤作動は起きなかった。

⑥ 考察（成果及び今後の予定）

- ・ ICT 技術を活用したわなの遠隔監視機器オリワナシステムを使用することで、わなの見回り回数を減らせ、負担を軽減できた。
- ・ 初期不良の1台を交換した後には誤作動は1度も無く、わなの作動状況を問題なく把握でき、情報の信頼性が確認された。
- ・ 機器の利便性については、使い方を理解すれば簡単に操作や情報共有ができ、見回り負担の軽減や経費の節減にもつながることが分かった。一方で、軽量化やGPS機能の向上など今後改良が望まれる点があったほか、機器の配置計画をよく検討する必要性、総務省への手続きが必要であることなど、注意する点もあった。
- ・ ICT 技術を用いたわなの監視機器は、製品ごとに様々な特徴があり、使い方に合った製品を選定することが重要である。



(3) 新型アライグマ専用捕獲器の試行

① 目的

埼玉県農業技術研究センターで開発された新型アライグマ専用捕獲器を、県内のアライグマの主要生息地や計画捕獲を実施している地域で試行し、実用性を確認する。

② 調査期間、設置場所

平成30年9月～平成31年2月の期間、センサーカメラとともに設置した。

ア 横浜市金沢区「柴シーサイドファーム」(1台)

イ 横浜市栄区「横浜自然観察の森」(2台) 従来型わな(3台)とともに設置

ウ 川崎市麻生区「岡上地区」(1台)

エ 茅ヶ崎市萩園「環境事業センター」(1台) 巣箱型わな(1台)とともに設置

③ 調査内容

ア アライグマの捕獲状況(捕獲数、性別、重量)

イ 錯誤捕獲の有無(捕獲数、鳥獣種)

ウ センサーカメラによる撮影鳥獣種の確認

④ 結果(詳細は表1参照) *環境事業センターは設置期間が短期のため参考

ア アライグマの捕獲状況

新型捕獲器では、「柴シーサイドファーム」で8頭、「横浜自然観察の森」で平均1.5頭の捕獲があった。「岡上地区」、「環境事業センター」は無捕獲だった。

従来型わなの捕獲は平均1.3頭で、新型捕獲器と特に差はみられなかった。

イ 錯誤捕獲の有無

新型捕獲器では、4カ所すべて錯誤捕獲は無かった。(「柴シーサイドファーム」の事例は餌の入れすぎによる)。従来型わなでは、「自然観察の森」で平均4.3頭の錯誤捕獲があった。

ウ センサーカメラによる撮影鳥獣種の確認

ネコの撮影が多かった。環境事業センターでは、アライグマは撮影されなかった。

⑤ 考察(成果及び今後の予定)

今回の試用から捕獲の実用性に問題はなく、錯誤捕獲が起きないことが確認された。

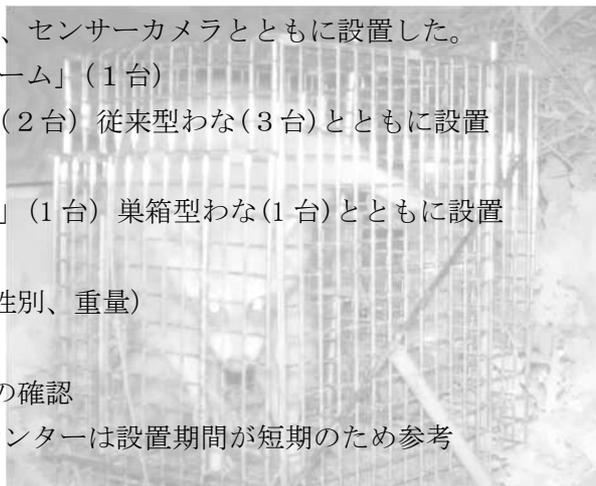


表1 新型捕獲器設置調査結果

調査場所	わなの種類	設置台数	アライグマ捕獲頭数 * () は1台平均	錯誤捕獲		撮影鳥獣種
				捕獲頭数 * ()は1台平均	獣種	
横浜自然観察の森	新型	2	3(1.5)	0(0)	—	アライグマ、タイワンリス、タヌキ、ネコ、鳥類
	従来型	3	4(1.3)	13(4.3)	タイワンリス9、鳥類2、タヌキ1、ネコ1	
柴シーサイドファーム	新型	1	8	1?(えさ入れすぎ)	ネコ1	アライグマ、カラス、スズメ、ネコ、ネズミ
岡上地区	新型	1	0	0	—	アライグマ、ネコ、タヌキ、ネズミ
環境事業センター	新型	1	0	0	—	ネコ、鳥類
	巣箱型	1	0	0	—	

(4) GPS を活用したサル管理手法検討業務

① 目的

地域ぐるみの鳥獣被害対策推進事業の一環として、対策が困難なニホンザルの群れについて、専門的観点から技術支援を行うため、GPS を用いた生態調査による効率的な管理技術の試行を行う。

② 調査対象群

T1 群、(川弟群)

③ 業務内容概要

ア GPS 発信器付き首輪装着

T1 群に所属するオトナメスに常時 VHF ビーコン発信をする GPS 首輪 GLT-02N (サーキットデザイン社製) を装着した。

イ 基地局設置

GPS 首輪から定期的にデータを自動ダウンロードする基地局を湯河原町役場および清川村役場に設置した。

ウ ANIML MAP で情報共有

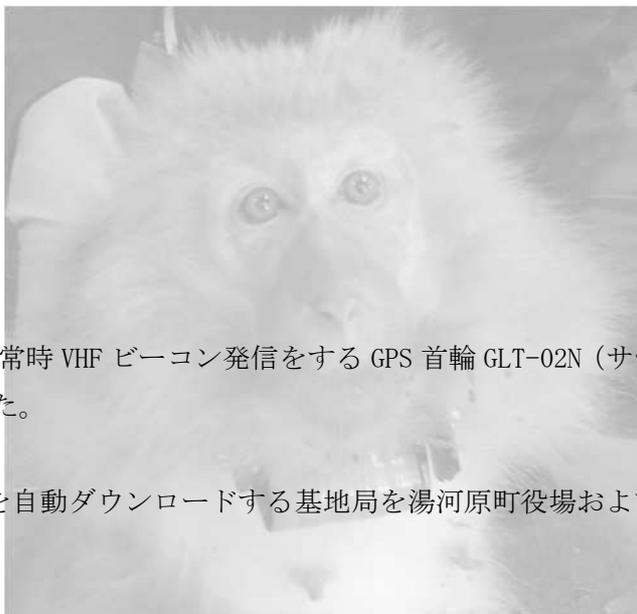
基地局でダウンロードした GPS データは、ドコモ回線でサーキットデザイン社が運用する ANIMAL MAP にアップデートされる。本業務関係者らが、インターネットを介して、サルの位置情報を情報共有した。

エ T1 群追い上げ試験

管理が困難な群れである T1 群について、蓄積した GPS データからサルの移動経路や泊場等の行動パターンを解析した結果、夜間に市街地へ出沒し泊まっていることがわかった。ミカン園および市街地への出沒を抑えつつ、生息目標地である北西方向へ追い上げができないか、委託業者による追い上げ試験を実施した。

[日程] ① 1 月 21~23 日、② 1 月 28~30 日、③ 2 月 18~20 日、④ 2 月 25~27 日

[追い払い道具] 煙火



④ 成果と課題

- ・ 1 次目標エリア (浅間神社~城山) への追い上げは成功し、回数を重ねるにつれて、短時間で追いつけることができた。追い払い作業期間中の農業被害が抑えられた。しかし、夜間には市街地へ戻ってきてしまった。泊場となっているエリアの空き家やヤブの対策が必要である。
- ・ 2 次目標エリア (城山より北) への追い上げは失敗した。電波を確認せずに無理に追い込むと、群れが分かれて行動したり、市街地側へ抜けてしまったりした。さらに、追い込むと熱海市側へ移動してしまう可能性が出た。

参考資料 《かながわ鳥獣被害対策支援センターの取組》

1 地域別、内容別の対応件数

平成 31 年 3 月 15 日現在

【地域別】

【内容別】

★合計★ 994 件

★合計★ 994 件

横須賀三浦	165
県央	113
湘南	321
県西	121
横浜川崎	43
その他（県域全体）	231

問合せ照会回答	89
現場での技術指導アドバイス	144
打合せ調整	203
会議等参加	109
講師	32
野生動物捕獲対応	11
現地調査	388
クマ調査	18

2 講師派遣一覧

32 回

平成 31 年 3 月 15 日現在

期日	派遣先	主な参加者	実施した技術指導など
H30 5.8	小田原市立大窪小学校 「サル・イノシシ教室」	児童、教職員	サル、イノシシの生態 遭遇時の対処方法
5.31	湘南サル追い払い員研修	秦野市、伊勢 原市、追い払 い員	日向群が大山街道を南下しないた めの追い払い方法
6.1	自然環境保全課主催鳥獣被害対策講習会	市町村、農協	野生鳥獣の生態、鳥獣被害対策

6.6	サルH群れ管理にかかる小田原市追い払い員研修	追い払い員、市、県西環境調整課	平成29年度GPSを用いたサルの管理技術の試行に係る委託事業結果を説明した上で早川地区正蔵寺付近にて、現地確認と追い払い活動の方法を説明。
6.6	かながわ版鳥獣被害対策アドバイザー制度（仮称）の試行に係る平成30年度第1回研修会	アドバイザー候補、農協中央会ほか	関連法規と農業被害を及ぼす野生鳥獣の生態について
6.26	JA湘南野生鳥獣捕獲従事者講習会	有害鳥獣捕獲従事者	対象鳥獣の生態について
7.13	JA西湘 清水支店・山北町鳥獣被害防止対策協議会 野猿対策講習会 「動物駆逐用煙火取扱い」	住民（農家など）、JA職員	サルの追い払い手法（エアガン・パチンコ・花火など） 電波発信機など資機材説明 電気柵設置手法
7.26	かながわ版鳥獣被害対策アドバイザー制度（仮称）の試行に係る平成30年度第2回研修会	アドバイザー候補ほか	集落環境調査の実際、調査結果の地区化作業、調査結果から分かること、航空写真画像との比較
8.23	専門学校生実習指導	学生、引率教員	ドローンによる集落環境調査見学、センサーカメラの設置実習
9.19	かながわ版鳥獣被害対策アドバイザー制度（仮称）の試行に係る平成30年度第3回研修会	アドバイザー候補ほか	電気柵、わなの設置方法など（座学、実習）
9.19	環境農政局採用2年目職員研修	水産技術センター職員	大磯町西久保周辺での現場視察（箱わな、集落環境整備、柵設置状況など）
9.27	JAあつぎ農業塾 鳥獣被害対策講習会	新規・就農コース塾生	野生動物の基礎知識と対策手法
10.2	JAかながわ西湘湯河原町鳥獣被害対策部会視察勉強会	部会員ほか	鳥獣被害対策について、ICT活用捕獲檻、自動撮影カメラ通信システム、アニマルマップ、ドローンによる集落環境調査、防護柵（楽落くん、簡易柵（ダンポール、ソーラー電気柵）

10.6	自然環境保全センター主催 第2回自然保護講座	県民	神奈川県内の鳥獣被害の概要、野生動物ごとの生態と痕跡、被害対策手法の概要
10.29	JA はだの わな講習会	生産者、秦野市猟友会など	くくりわなの説明など
11.16	自然環境保全センター主催 野生生物管理技術支援研修	県、市町村等職員	自動撮影カメラを利用した鳥獣被害対策（講演） 加害動物の特定、被害対策の効果検証、わな捕獲の見回り省力化、大型動物の出没監視など
11.25	丹沢ブナ党クマシンポジウム	専門家、一般参加者	パネリスト 「クマ出没対策の現場」からの報告
11.29	高根自治会 鳥獣による被害対策講習会	住民など	高根地区に設置したイノシシ侵入防止柵について
11.29	関東地域野生鳥獣被害対策セミナー（関東農政局主催）	関東農政局管内市町村等職員等	ドローンを活用した鳥獣被害対策の負担軽減について（講演）
12.18	山北町サル追払い等講習	住民など	野猿対策について 支援C坂口から、スライドを用いてサルの生態と対策手法について説明した。
12.27	放課後等デイサービス「どんぐりん」防災教室	子ども、スタッフ	身近な野生動物について、スライドを用いた説明。カメラ動画や毛皮、角を使用した。
H31 1.18	JA はだの 有害鳥獣被害対策に伴う煙火講習会	住民	クマ、イノシシの痕跡・追払いのやり方
1.21	畜産職向けイノシシ研修会	家保職員	イノシシの生態等について
1.22	JA はだの 煙火講習会	住民等	イノシシ、シカの追払いのやり方

1. 25	岡上地区 有害鳥獣対策勉強会	農家など	タヌキやアライグマの捕獲が多くある場所を見て歩き、動物の痕跡や動物が潜みやすい場所等について現地研修。 中型獣類（タヌキ、アナグマ、ハクビシン、アライグマ）の生態と被害対策手法の講義
2. 6	JA 西湘 煙火講習会	JA 西湘組合員ほか	サルの生態と対策手法、煙火を使用した追い払い方法（実技）
2. 7	産業振興課 鳥獣被害対策 マッチングフォーラム	関連企業等	鳥獣被害対策の現状と課題（講演）
2. 15	JA 湘南柑橘部会講習会 獣害対策講習会	農家など	電気柵の正しい張り方など
2. 21	愛川町有害鳥獣対策実施隊 安全講習会	有害鳥獣対策 実施隊員など	鳥獣捕獲等事業における捕獲手法、安全確保
3. 12	平塚市 鳥獣による被害対策講習会	農家など	イノシシやシカの生態、被害対策、電気柵の設置と管理（実技）
3. 12	JA 秦野 有害鳥獣捕獲講習会	組合員など	対象鳥獣にかかわる生態
3. 14	JA 秦野 くくりわな講習会	組合員など	くくりわなの設置、操作方法の実技

3 委託業務一覧

- (1) 野生動物を対象とした自動撮影カメラのデータ回収及び解析
- (2) 「GPS を用いた効率的なサルの管理技術試行」における観測範囲調査
- (3) GPS を用いた効率的なサルの管理技術の試行
- (4) 空中撮影による鳥獣の出没状況の把握
- (5) センサーカメラ及び空中撮影カメラの動物画像自動認証
- (6) 指定管理鳥獣生息状況調査
- (7) イノシシ捕獲
- (8) わなの遠隔監視システムの運用に係る通信状況調査
- (9) ICTを活用したイノシシ捕獲の試行
- (10) ニホンザル生息状況調査